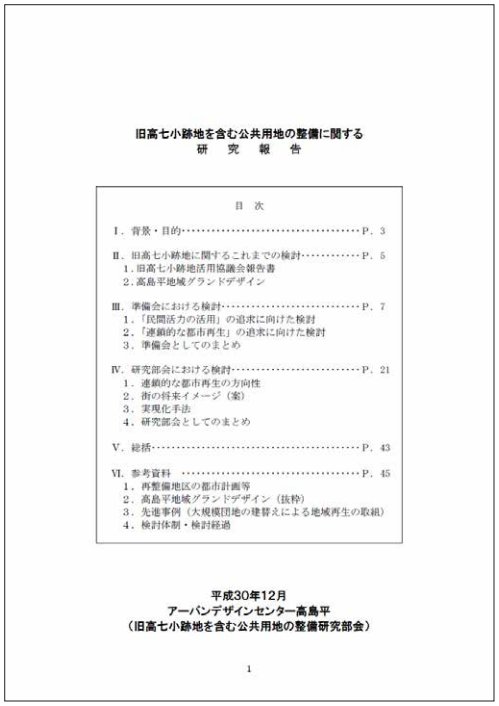
UDCTak News
アーバンデザインセンター高島平
平成31年3月号
Vol.4

UDCTakでは、設立当初からの使命であった「旧高七小跡地を含む公共用地」の再整備に係る研究を昨年度から進めてきましたが、二ヵ年にわたる研究の結果を平成30年12月にとりまとめ、板橋区に提言しました。また、前号で予告をした「高島平50周年記念事業」を、地域の様々な方々との協力のもと、3月1日～3日にかけて大々的に開催しました。
本号では、これらの報告を中心に、UDCTakの平成30年度後半の活動についてご紹介いたします。

「旧高七小跡地を含む公共用地の整備研究部会」研究報告をとりまとめました

板橋区が平成27年10月に策定した「高島平地域グランドデザイン」では、第二部において旧高島第七小学校（旧高七小）跡地を含む公共用地（再整備地区）の再整備事業を、都市再生へのリーディングプロジェクトと位置付け、様々な活用パターンを示していますが、活用方策の決定までは至っていません。
UDCTakでは、この再整備事業を具体化すべく、平成29年3月より再整備地区の活用方策や整備の方向性について調査・研究に着手しました。平成29年度は、「旧高七小跡地を含む公共用地の整備研究準備会」として、グランドデザインで示された活用方針を再評価するとともに、地域全体の都市再生に向けた検討を行いました。そして、平成30年度は「旧高七小跡地を含む公共用地の整備研究部会」として、準備会での検討を深堀りする形で検討を進め、「再整備地区の活用にあたっては、周辺地権者に一定の建替え意向もあり、実現性もあることから、地域全体の都市再生に向けた連鎖的な建替えの『種地』として活用することが最善と考える。」とする研究報告をとりまとめ、区に提言しました。研究報告の中では、連鎖的な都市再生の事業展開イメージや、街の将来イメージ案、実現化手法等についても記載しています。



旧高七小跡地を含む公共用地の整備に関する
研　究　報　告

目　次

Ⅰ．背景・目的……P．3
Ⅱ．旧高七小跡地に関するこれまでの検討……P．5
1．旧高七小跡地活用協議会報告書
2．高島平地域グランドデザイン
Ⅲ．準備会における検討……P．7
1．「民間活力の活用」の追求に向けた検討
2．「連鎖的な都市再生」の追求に向けた検討
3．準備会としてのまとめ
Ⅳ．研究部会における検討……P．21
1．連鎖的な都市再生の方向性
2．街の将来イメージ（案）
3．実現化手法
4．研究部会としてのまとめ
Ⅴ．総括……P．43
Ⅵ．参考資料……P．45
1．再整備地区の都市計画等
2．高島平地域グランドデザイン（抜粋）
3．先進事例（大規模団地の建替えによる地域再生の取組）
4．検討体制・検討経過

平成30年12月
アーバンデザインセンター高島平
（旧高七小跡地を含む公共用地の整備研究部会）

1

研究報告の表紙

「再整備地区」の位置図

旧高七小

今後、板橋区をはじめ関係機関において検討・協議が進められることになりますが、こうした都市再生の実現に向けては、地域の関係主体のいっそうの連携・協働が不可欠となります。UDCTakとしても民学公連携のプラットフォームとして引き続き関わっていきます。

高島平50周年記念事業　開催報告！

この地に「高島平」の地名がついて平成31年3月1日で50周年を迎えました。最先端の街として誕生した高島平のまちは、成熟し深みを増してきた一方で、施設は老朽化し更新の時期を迎えています。3月1日・2日・3日の三日間を次の50年に向けたまちづくりへのスタートと位置づけ、改めて高島平のまちを知り、これからを考えるイベントを開催しました。イベントの開催にあたっては、UDCTakから地域の方々や団体に呼びかけ、「50周年記念事業実行委員会」を組織し、3日間多岐にわたるプログラムを企画運営しました。各イベントには多くの方にご参加いただき、メディアでも多方面に紹介されました。本紙では、イベントの全体の概要をご報告するとともに、中でもUDCTakが主体的に開催した「高島平ヘリテージ50」展示と、記念シンポジウムについて、ご紹介します。

■主催　：高島平50周年記念事業実行委員会　　■共催　：板橋区
■協力　：赤塚公園サービスセンター、いたばしCBプラットフォーム、志村消防署、大東文化大学、time spot、高島平観光協会(仮)、高島平商店会、高島平新聞社、高島平地域創造会議、高島平中央総合病院、高島平マルシェ実行委員会、地域交流広場ぱうぜ、東京団地倉庫、東京都中央卸売市場、日本自動車ターミナル、日本総合住生活、ＵＲコミュニティ、ＵＲ都市機構、各イベントに出演・出展・ご提供いただける皆さま、個人の皆様（五十音順）

3/1fri　みんなで乾杯！

- 場所：**UR高島平団地「DANmaCHI」前**
- 日時：2019年3月1日(金) 20:00
- まちの50歳を祝って高島平地域内外の様々な場所で一斉に乾杯をする企画。拠点会場では、オリジナルクラフトビールの販売、伊藤園板橋支店協賛によるお茶の配布などを実施

当日はJ:COMの中継も入り、拠点会場は賑わいを見せ、20時には50名を超える方々が一斉に乾杯を行いました。協力飲食店で乾杯をする方々、家庭で乾杯をする方も、共通ハッシュタグをつけてSNSに投稿があげられました。

3/3sun　高島平まちの文化祭

- 場所：**高島平区民館ホール**
- 日時：2019年3月3日(日)
  10:00～16：00
- 高島平のこれまで、いま、未来をつなぎ、大人もこどもも楽しめるイベントを地域主導で開催

ステージでの活動紹介・発表（ひざらく体操、いたばしCBプラットフォーム、にりん草のうた、高島平100年大学、高島平音頭）のほか、音楽やダンス等のパフォーマンス、パネル展示などが行われ、賑わいました。

会場では、高島平マルシェや高島平中央総合病院による健康フェアも開催。多様な世代が会場に来訪し、一緒に盛り上がる場面もあり、高島平の地域力や未来への可能性を感じました。

高島平見学ツアー

- 3月1日(金)、2日(土)、3日(日)の三日間、高島平に立地する施設の協力のもと、普段なかなか見ることのできない高島平を再発見するツアーを開催

A　大東文化大学キャンパスツアー（3/1）
B　板橋市場ツアー（3/1）
C　UR高島平団地ツアー（3/2）
D　団地倉庫＆トラックターミナルツアー（3/3）
E　赤塚城址歴史ウォーク（3/2,3/3）

高島平の多様性を象徴する施設を再発見する貴重な機会となりました。ガイドいただいた方々の丁寧かつ楽しいお話しもあり、参加者の満足度は高い結果となりました。

平日に開催したツアーの集客面での課題、各ツアーを連携する形でより多くの方に高島平の面白さを体験してもらうための工夫の必要性など、今後に生かすべき課題も明らかになりましたが、各施設とのつながりも生まれ、今後につながる機会となりました。

連携プログラム

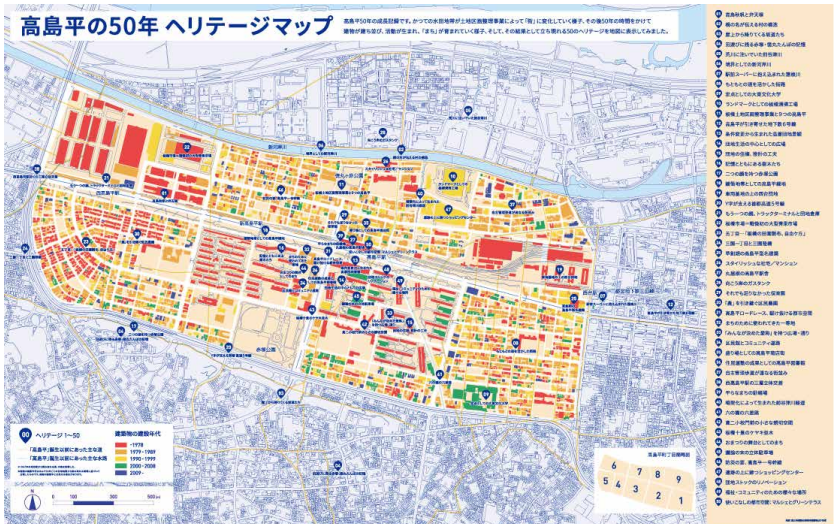
期間中を通じて、50周年を祝う様々な連携プログラムが開催されました。

- **高島平団地写真展**
  （日本総合住生活）
- **赤塚公園ファイアフェスタ**
  （志村消防署・赤塚公園サービスセンター）
- **50周年記念　ダイバーシティウォールパズルアート展**
  （猫沢八郎・time spot）

高島平ヘリテージ５０「高島平をかたちづくってきた50の都市空間」展

・場所：**板橋区役所1階ギャラリーモール**　日時：1月21日～3月1日
　　高島平区民館ホール展示　　日時：3月2日(土) 13:00～16:00、3月3日(日) 10:00～16:00
・「高島平ヘリテージプロジェクト」の2年あまりの活動の成果として、高島平の成り立ちを物語る特徴的な場所を50箇所選定し、マップやパネルにまとめて展示

地図を印刷した大きなマットは多くの来訪者の目を惹きつけ、区役所でも、足を止め展示を眺める方々が多くいました。区民館ホールに移動した3/2と3/3は、シンポジウムや文化祭への来場者も含め、多くの方が展示に見入りました。会場では「あなたにとっての51番目のヘリテージ」を募集し、新たに50（合計100）のヘリテージが集まりました。メディアでの取材も多く、関心が高かったことから、ヘリテージをテーマとした街歩きの企画、トークイベント、新たな情報も踏まえた冊子化についても、UDCTakとして検討していきたいと考えています。



3/2sat　50周年記念シンポジウム

・場所：**高島平区民館ホール**
・日時：2019年3月2日(土)　10:00～16：00
・基調報告「高島平ヘリテージ　高島平をかたちづくってきた50の都市空間」中島直人（東京大学准教授）
・基調講演「『平成』という時代の都市観と住まい観の変化」三浦展（㈱カルチャースタディ研究所）
・パネルディスカッション「これからの50年に向けた高島平のまちづくり」
　コーディネーター　出口敦（東京大学教授）
　パネリスト　三浦展／木下庸子（工学院大学教授）／樋野公宏（東京大学准教授）／
　　廣瀬佐平（板橋区町会連合会高島平支部長）／木村徹（板橋区高島平グランドデザイン担当課長）
・来場者数：89名

中島直人氏から基調報告として、50のヘリテージが紹介されたのち、三浦展氏の基調講演では、今主流になりつつある「第四の消費社会」のなかで郊外都市が目指す姿として、①ワーカブル（働く女性が住み働きやすい）、②夜の娯楽（仕事や家事育児の後にくつろげる、地域とつながれる場）、③シェアタウン（空いている場所、能力をシェアしあって機能を補い合う）の３つのキーワードとその実例が示されました。

パネルディスカッションでは、冒頭に、木下庸子氏から「建築を延命させるためのヒント」、樋野公宏氏から「高島平のいまとアーバンデザインセンター」として話題提供いただきました。ディスカッションでは、「50年前につくられた豊かな緑や都市基盤」、「50年の間に育まれてきた多くの方々の暮らしや活動」、「団地や住宅だけではない多様性」を高島平のヘリテージととらえ、「地域全体を回遊しやすくする移動交通」、「人や活動、能力や才能を活かしたローカルなサービス」、「豊かな空間を活かしていくための『シェア』の仕組み」をもっと発展させることが重要であるとの提言がなされました。そのうえで、「高島平に住みたい」と思う人を増やしていくという考え方を皆で共有して、まちづくりに取り組んでいく必要性が強調されました。会場には坂本健板橋区長も訪れ、これからのまちづくりへの期待が述べられました。

高島平アーバンデザインスクール２０１８「ゲームを通じて考える　まちとあなたの防災」

・講師：飯塚裕介氏（大東文化大学社会学部・環境創造学部 講師）
・日時：2019年2月16日(土)　10:00～12:00
・場所：高島平一丁目集会所　洋室
・参加者：12名

今年度第3回のスクールは、UDCTakで取り組んでいる「ゲームで防災プロジェクト」をより多くの方に知ってもらうために、大東文化大学の飯塚裕介先生を講師として開催しました。前半は、飯塚先生より、東日本大震災以降、防災教育の観点から様々なタイプのゲームがつくられてきていること、防災ゲームの意義は、防災まちづくりの第一歩として「気付き」を促す点にあることなどについて、レクチャーいただきました。後半は、ゼミの学生にも協力していただき、飯塚ゼミで開発された「TENPEN」と「ご近所さん安否確認ゲーム」を実際に体験。大いに盛り上がりました。
改良を重ねられてきている様子も生々しくお話しいただき、ゲームとしての楽しさと学びの効果のバランスなどについても考える機会になりました。高島平発のゲームとして全国、世界に発信すべく、UDCTakとしても体験と対話の場を作っていきたいと思います。

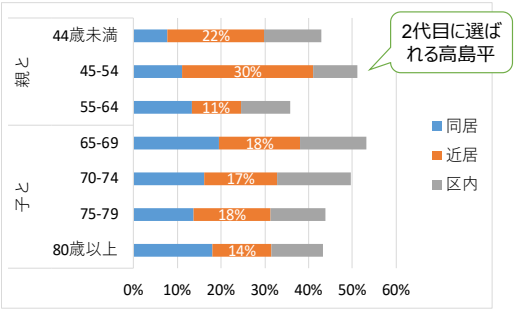
当日の防災ゲーム体験の様子

アンケート結果速報版

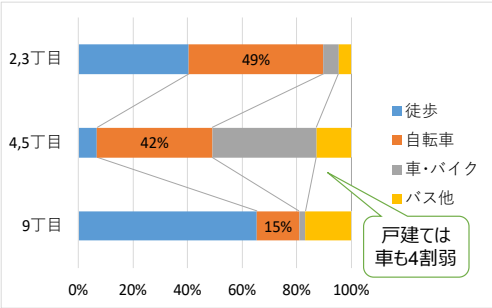
「買い物支援プロジェクト」の一環として、2018年11月に、高島平地域の住民の方々に向けて、買い物を始めとした日常の暮らしや移動について問うアンケート調査「高島平地域のライフスタイル調査」を実施しました。四、五丁目の全戸建て、二、三、九丁目の抽出した建物に全戸配布し、最終的に950件の回答が得られました（回収率22.9%）。多くの方にご協力いただき、ありがとうございました。
速報として、50周年記念シンポジウムでは以下のようなことが報告されました。

●地域への愛着・誇りがある方が多く近居率が高い（二代目にも選ばれる高島平）
●地域内に「気軽に行ける場所」が ある人は半数程度（居場所を増やす必要がある）
●徒歩と自転車で暮らせるまちである（地域差があり四、五丁目は買い物不便で自動車利用も多い）
●地域交流活動にも地域差がある（四、五、九丁目に参加者が多い）

アンケート結果については、さらに分析を進め、暮らし続けられるまちづくりのために必要なプロジェクトの提案や実施につなげていきたいと考えています。



親または子の居住地



地区別にみた買い物の際の移動手段

UDCTak
アーバンデザインセンター高島平

問い合せ先 ▶ **UDCTak事務局**
〒173-8501　東京都板橋区板橋二丁目 66 番 1 号
都市整備部 高島平グランドデザイン担当課
電話番号：03-3579-2183　FAX 番号：03-3579-5437
E メール：info@udctak.jp

facebook ▶ facebook で最新情報を発信しています。
「UDCTak」で検索し、いいね！をクリック！

Homepage ▶ https://udctak.jp/